



JRA重賞級認定競走／社台スタリオンステーション協賛／BOKUJOB杯

第3回 ネクスター北日本 (M1) (グレナディアガーズ賞)

水沢競馬場／3歳・ダート1400m

4月5日(日) 第11競走 18:15発走

全国的・各世代のダート競走体系の整備の中で、兵庫チャンピオンシップJpnIIIにつながる3歳短距離路線の、その北日本地区（北海道・岩手）トライアルとして作られた重賞競走。一昨年の第1回は門別競馬場で、昨年の第2回は水沢競馬場で行われたように当初は2地区での交互開催を予定していましたが、この第3回以降は水沢競馬場（岩手）で開催されることになりました。

■ティーズアライト(牡3 門別・小野望厩舎)



昨年11月の南部駒賞の覇者が再び岩手に登場。そのレース後は大井競馬に移籍、3戦して勝ち星こそ無かったが、例えば前走で敗れたシーテープは門別で7戦3勝の実績を持ちゴッドバロックとも僅差で戦っていた馬。それと1秒1差ならこの馬の走りも決して悪くはないし、3戦いずれも勝ち馬から1秒前後の差で踏みとどまっている事を思えば昨年後半からの安定感も継続している。先行馬が絶好の最内枠。先行有利な傾向が続くならこの馬にとって大きな味方にもなってくれるだろう。

「冬の間も大井で走っていたから他の馬に比べても息はできていると思います。岩手への遠征経験もありますからね。楽な相手ではないが地力に期待。（小野望調教師）」

■トウナスタディ(牡3 盛岡・齋藤雄一厩舎)



昨年は若鮎賞・ジュニアグランプリと重賞で2着2回、いずれもセイクリスティーナに僅差に迫ったもので本馬の能力の高さは疑うべくもないはず。ただ、そんなレースは全て芝を舞台にした戦いだった。ダートを舞台とした重賞では4戦していずれも着外と苦戦が続く。そんな現状からは“ベストは芝”の評価にならざるを得ないが、しかし繰り返しになるが芝で見せていたパフォーマンスは間違いなく本物。ダートでもその片鱗を見せてくれる事を期待しよう。

「やはり芝馬なんでしょうし、ここまでの深い馬場ももうひとつだったように感じます。ただ着順の数字ほどには状態は悪くないと思うので頑張ってもらいたい。(齋藤雄一調教師)」

■ササキントサブロウ(牡3 盛岡・飯田弘道厩舎)



重賞はこれが4度目の挑戦。初挑戦だった昨冬の寒菊賞では7着だったが、暮れの金杯、春初戦のスプリングカップではいずれも4着に食い込んできた。そこに本馬の成長が現れていると考えたいところだ。ひとつの要因は寒菊賞から着用し始めたプリンカー。これでパドックでの落ち着きが増し。レースでの末脚もしっかり発揮できるようになってきた点は注目しておきたい部分。ここでの戦いもきっと本馬の成長の糧になる。

「冬場も遠野で乗り込んでいた分、力を出せる状態で来ていると思います。調教もしっかりできていますしね。自分の競馬ができればここまでのように上位に食い込んでも来てくれるのでは。(飯田弘道調教師)」

■アオノセカイ(牡3 門別・村上正和厩舎)



Photo:山下広貴

能力検査が6月、デビューが7月なのは今回の遠征勢の中では遅めの方。初勝利までも4戦を要したが、デビュー当初から素質の高さに期待されていた存在だったし、勝つかははっきり負けるかの振れ幅が大きめな戦績も“ハマれば一発ある馬”と前向きな評価をされていた点は覚えておきたい。前走・北海道2歳スプリントは不利な最内枠で先行争いに巻き込まれたもの。2着だった前々走の走りが再現できるならここでも上位争いができていい。

「思った以上に良い感じに調教ができてきていて、身体のハリも良い感じに思えます。ただ、ちょっと気難しいところがある馬。地元の名手にうまく御してほしいと考えての依頼です(村上正和調教師)」

■マリーオラス(牡3 水沢・瀬戸幸一厩舎)



初勝利まで5戦かかったとはいえデビューから7戦目までは1勝2着2回3着3回の非常に安定した成績。その後の安定感がもうひとつなのは、陣営はその要因を距離に求めているようだ。確かにマイルでは3戦いずれも着外。それぞれの勝ち馬の名からすれば強敵揃いだったのは間違いないが、本馬にとっては距離も堪えたということだろう。今回はさらに相手強力と言わざるを得ないが距離短縮は好材料。ここでの走りを今後の手がかりに。

「状態は変わりなく来ているが今回は相手が強力ですね。ただこの馬にはマイルが長いように思いこの距離を選びました。1400mでこれだけの相手にどれだけやれるか？に期待しています。(瀬戸幸一調教師)」

■ゴッドバロック(牡3 門別・角川秀樹厩舎)



2歳デビューは今回の遠征馬中で最も早い昨年4月24日。その新馬戦を8馬身差で圧勝してからは門別の“エリートコース”に乗って戦ってきた。7戦3勝のキャリアは常にトップクラスの強豪と渡りあってきたゆえ、白星先行でない点はむしろそれだけ高いレベルで戦ってきた証といえるものだ。前走の兵庫ジュニアグランプリ2着はもちろん好内容だが栄冠賞での、ベストグリーン相手に差を詰めた2着も本馬の地力を感じさせるもの。今回の主役候補筆頭はやはりこの馬だ。

「前走後はひと息入れて今年は1月下旬から始動。すこぶる順調に来ていますね。ここまで1400mまでできている事からこのレースを初戦に選びましたがもっと長い距離でも戦える馬だと思っている。ここからのレースぶり今後の路線を決めたいですね。(角川秀樹調教師)」

■タケノルル(牝3 門別・川島洋人厩舎)



提供:ホッカイドウ競馬

昨年7月、本来のデビュー戦が取り止めとなって1週伸びた形になった本馬だったがそこを危なげなく突破。続く2戦目も快勝、3戦目で挑んだエーデルワイス賞は6着に終わったものの、自身初の重賞挑戦ながら強豪相手に正攻法で挑んだ結果と思えばむしろ力量の片鱗を示したと断言していいのでは。実際、2戦目ではティーズアライトやのちに笠松ゴールドジュニアを勝つリバーサルトップらを退けている。キャリアこそ少ないが素質でひけは取っていない…と見るのが妥当な評価になるはずだ。

「ここまで3戦ですが良いところを見せて勝ってくれている馬。休み明けでも順調に来ています。遠征や距離が初めてになるのでそこは割引になるかな。追い切って身体もスッキリしてきたので、あまりテンションが高くなりすぎずに挑めればいいですね。(川島洋人調教師)」

■テンエックス(牡3 門別・川島洋人厩舎)



ここまで6戦1勝、直近の着順は連続フタ桁。その数字だけを見ると軽視してしまいそうになるが、新馬戦3着、折り返しの未勝利認定で初勝利という結果は門別デビューの2歳馬として決して悪くない内容だし、何より戦ってきた相手が強力なのは見落としてはならない点。前走のゴッドバロック、栄冠賞のベストグリーンがそうだし、新馬戦で敗れたアヤサンジョウタロものちに全日本2歳優駿で4着になった馬だ。地方の現3歳世代でもトップクラスと戦ってきたのこの着順だという事は念頭に置いておくべきで、ここでも一概に軽視は禁物。

「馬房の関係でこちらに来るのが少し遅かったがその分育成で乗り込んでいたので息はできている。昨年勝ってからは、相手が強かった事もあるがレースぶりがあまり変わらなかったので、ここできっかけを掴めれば。(川島洋人調教師)」

■ジェイエルビット(牡3 水沢・佐々木由則厩舎)



ここまで重賞は2度挑んで未勝利。若駒賞ではセイクリスティーナに阻まれたように同厩のライバルの壁は高いが、しかしそれらに次ぐ存在、それだけの力がある馬という評価は間違いないはずだ。前走にしてもスプリングカップ上位馬らを退けての7馬身差勝利だから地元勢の中での力量はやはりトップクラス。ここでの焦点は、それだけに“遠征勢とどこまで渡りあえるか？”だ。南部駒賞でのティーズアライトとは7馬身半の差。それをどこまで詰めることができるか？そこに注目しよう。

「外枠はこの馬には悪くないし、地元の利と一度走った分の上積みもあると思う。良い位置で流れに乗れば良いですね。ただ雨の影響であまり高速になるようだと心配。(佐々木由則調教師)」